

新設中学校開校に係る懇談会

令和4年5月20日 19:00～ 下神野小学校体育館

■出席者 保護者7人 学校関係者2人
東中教育長 曲里教育次長 ほか事務局4人

■教育長あいさつ

令和4年1月18日の会で、令和4年に新設校を開校する予定を、少なくとも今の中学校1年生が中学校を卒業するまでの間延期し、計画については新たに今年の6月に原案をお示しするという事を報告させていただきました。

その時に、皆様方のご意見も頂戴し、また、その後6年生の保護者会の中でもご意見をいただきました。

その中にこれからのことについては、全体会ではなく、少人数の部会に分かれて開催してほしい。また、こども園の保護者の意見も聞いてあげてほしいという声もありました。それで学年始めに、学級懇談会に出席させてもらい意見交換させていただく予定でしたが、懇談会が中止になるなど機会が持てなかったため、夜に懇談会のみ4回に分けて開催させていただくことになりました。

今日皆様方から色々ご意見を伺い6月に原案をお示ししたいと考えていますので、どうぞ色々なご意見をいただきますようお願いいたします。

なお、1月の会で検討することになっていた野上中学校に指定校変更した場合の通学支援バスの件ですが、1便ですが朝練に間に合うように、大十バスに委託し、運行しているところです。

指定校変更については、新中学1年生3名、在校生4名の計7名が申請し、野上中学校に通っています。

一昨日の5月18日の会では、参加者は12名でした。その時出た意見は、現在の野上中学校の施設のこと、部活動はどうなるのかということ、今年度運行開始した通学支援バスは来年も運行するのかということ、児童生徒の交流活動をもっと積極的にやってほしい。というような話でした。これについてはみなさんに配布した用紙の下にQRコードを印刷していますので、スマートフォンで読み込んでいただくと、一昨日の懇談会の概要を見ていただくことができます。

以上、1月17、18日の懇談会以降の報告になります。よろしく願います。

■質疑応答

○参加者が少ない。ホームページに前回の記録が挙げられているが、文章では伝わってこない面があるので、全体で一緒にやってほしい。こども園の保護者の参加は難しい。託児のこと、お知らせを早く（1カ月前）することなど工夫をしてほしい。

A：少人数であれば意見を出しやすいという希望がありましたので、4回に分けて開催しました。6月は全体で実施したい。できるだけ早く案内を出したい。

○明日は、神野保育所のミニ運動会があり、早く寝かしつけなければならぬので今夜は行けないという人が3名いた。

A：保健福祉課と園には連絡してありましたが、そのことは知りませんでした。

○今年高校1年生になった子どもは、中学校では10人のクラスだったが、高校では100人ぐらいの集団になって、人に酔ったようで塞いでしまっていた。大人数でストレスや悩みがたまっている子どもを、美里中学校の先生は心優しく受け入れてくれている。帰る所があるという安心感で高校生活を送れている。統合してしまうと卒業生が寄りにくいのではないか。美里中学校卒業生が安心できる新校舎を希望したい。町民の憩いの場になるような。

○今年「子育て応援宣言」というキャッチフレーズを出して、町は取り組もうとしている。子どもは義務教育終了まで地域に育ててもらった。10～20年度に、育った子どもたちが残りたいと思えるような町にしていく点で、中学校の意味は大きい。

○図書館が充実していない。県立図書館と提携して希望すれば本を取り寄せてもらえるが、中央公民館と文化センターの図書室を一緒にして、ノビノスのような大きな憩いの場ができれば良い。人口的には野上中学校あたりが中心だと思うが、施設でいえばこの地(神野市場?)になるのでは。

○新設中学校のビジョンを示してほしい。みんながワクワクするようなものを期待したい。また、パンフレットのようなものがあったら良いのでは。今できている案だけでも教えていただきたい。決まっていることはあるのですか。理想はいろいろある。

A：6月に統合の時期とスケジュールについて案を示したい。新設中学校が皆さんに受け入れられるようにしたいと思います。読書についての話は区長会でも話題になりました。限られた予算の中でみんなが読みたい本をそろえるのは難しいが、県立図書館の貸し出しや購入り

クエストカードを利用して充実させていきたい。

○図書館の空間に行けば本を手取る。手に取ってみて選んで読むということができる。文化センターの本は、中高生の読みたい本は少ない。有田川町でも図書館の空間を工夫することで読書を広めようとしている。新設中学校が拠点となって、文化的な広がりをつくり美里の人も足を運べるイベントをしてほしい。

A：ノビノスのような空間はとても良い。勉強もできる。また、新設校は、卒業生が相談できる母校となるような学校にしていきたい。

○中学校の廃校利用については、人を呼べるような再利用を考えてもらいたい。子どもの人数を考えれば、統合はいたし方ないが、中学校が何か他のものでも姿が残っていれば良い。人口が減るばかりなので、何か利用できるものにすることが必要だと思う。

A：全国に空き校舎が何千もあり、文部科学省では、未来につなごうみんなの廃校プロジェクトを立ち上げ、活用事例集を出している。また、うまくいっている所も実際にある。未来に向けて考えていくことは大切で、全町民や全国にアイデアを求めていくことになる。

○初島中学校は老人ホームになるのかな。バリアフリーなので多目的施設として使えばいいなと思っていた。

A：専修学校が入ると聞いています。

○保育所の耐震工事で不便な時を我慢しなければならなかった。でも

その後は使われずこども園が新設された。神野保育所の跡は、あまりにも見るに耐えられない。中学校も新しく新設できるという期待もある。10年後に、今の野上中学校の校舎を建て直すということになるのであれば、新設しても良いのではないか。

A：耐震基準はクリアしていますが、建て替えるのはなかなか難しいと思われます。

○保護者は自分の子どもを中心に考えてしまう。統合を急がなくてもと思ってしまう。十分すぎるぐらい交流できてから中身のことを考えていけば良いのではないか。中学校の統合に関して、野上地区の保護者との温度差が大きい。何か変わるものが必要ではないか。

A：同じ学年の生徒と一緒に活動する機会を増やしていくことは大切です。時間的な制約がありますが、計画案を示していきたい。

○私は町外の出身ですが、こちらで子育てをしたいと思った。少人数での指導に期待をした。子どもを観ていると、友達の入替わりがなく、助けてもらうことがいっぱいあった。2人の子どものうち、下の子の時は統合しているだろうなという覚悟はもっている。統合によって不便になるのは困る。上神野や毛原から通う女の子の親は心配だと思う。帰りの通学バスも部活動終了時や普通の下校時にあわせて運行してもらえるのか心配する。

A：通学バスのルートは年度のたびに検討していくことになります。バスに酔ったり、乗り遅れたりといったこともあるかもしれません。その場合の策も考えていく必要があると思っています。

○バス通学生徒が不便な思いや不利な思いをしないようにしてもらいたい。

A：遠くても学校に行けば楽しくみんなと過ごすことができる。個々の事情に対して、学校との間で解決していくことになります。できるだけ多くの子どもが学習環境を共にして活動できるようにしていきたい。

○6月の提案の後に懇談会はあるのですか。

A：パブリックコメントを求めたい。どんな質問や回答があったかを示していきたい。

○授業参観の後に懇談会をもつなど、コロナ禍に始まった話なので、参加者が多くなるように、何かのついでに開いてほしい。無理なことであっても要望に対して具体的に回答してほしい。既に意見はたくさん出ている。

○案内は、内容まで示して、集まりたくなるようなデザインにしてはどうか。

A：少なくとも3年間延期した中で、カバン、部活など考えていかなければなりません。野上地区の方も考えていくことになる。それぞれの学校で部会をつくって考え合わすなどの作業が入ってくれば、町全体で考えていくことになると思います。

○学校名にしても「紀美野」以外に他にはないと個人的に思うが、経

緯がわからずどこかで決まっていたということにならないようにしてほしい。

A：ホームページを利用して発信していきます。

○野上地区の人の意見を聞きたい。統合準備委員の方にも意見が言えるようにしてほしい。

A：学校で部会をもってもらって、代表者を通じてみんなで決めていくことが大切です。折り合いをつけていけるようにしていきたい。

○紀美野中学校へ引越しをしてでも行きたいと思える魅力あるものになれば、そして、中学校がまちづくりの拠点になればと期待したい。

A：紀美野で一生を過ごしなさいではなく、町外でしかできないやりたいことがあれば、夢を実現するため努力すればいい。どこにいても時々戻ってみようかな。大きな仕事を終えたら帰ろうかな。そんな気持ちになれるような町にできればいいと思っています。

○アピールの仕方によっては、このように人口が減ってしまう町ではないと思う。

○学校間の交流というのは具体的に何をするのか。

A：水泳指導のとき、部活動の合同練習や試合のときなど、最初は自然な形を考えていく。学校でも考えてくれることになる。小学校段階から交流しておくことで、中学校の交流を円滑にできる。

○コロナ禍で、宿泊体験や文化祭が中止になっている。保護者同士のコミュニケーションも取れない。

A：学校独自の取組みは大切にしたい。視野を広げ、人間性を広める機会として交流活動に意味をもたせたい。

○懇談会や説明会への参加をしやすくするために、保育室や託児などの子育て世代への配慮があれば良い。また、決定することや提案することなどの内容をあらかじめ知らせてもらった方がよい。

A：6月後半で案を示す際には、こども園・小中学校の保護者に案内し、野上地区も美里地区も一緒に行きたい。

(終了 21：00)